

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	Y.N.	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	3	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	サウスカロライナ大学エイキン校		
期 間	2023 年 8 月 19 日～ 2024 年 5 月 10 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / <u>学外の学生寮</u> / アパート / その他 ()				
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 (寝室 2 個の 4 人部屋)				
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○				
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所 ◎
	キッチン	◎	冷暖房	◎	冷蔵庫 ◎
滞在費	約 (163800) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃				
移動	(寮から徒歩) で、約 (5) 分 *大学までの所要時間と移動方法				

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	61126 円	学食日、学食以外の食費
学用品購入費	9370 円	教科書購入、レンタル料
交通費	0 円	
交際費	0 円	
その他	5000 円	生活用品費

合計

75496 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

薬物等の使用は見られず、盗難被害に遭うこともなかった。危険地域については、特に留学先の担当者から忠告されることもなく、比較的安全な地域であったと考えられる。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学／その他（ ）		
加入期間	（ 9 ）ヶ月間	保険料	（ 20513 ）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	（ ）ヶ月間	保険料	（ ）円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ **エイキン市** ）
 アメリカ、サウスカロライナ州の西に位置する小さな都市。人口は三千人ほどで、アートやカントリーミュージック、ホースレースなどが有名な都市である。治安は良いが公共交通機関はあまり発達しておらず、基本的に車での移動が主流である。都市には牧場などの自然あふれる場所が多くある一方、ファーストフードチェーン店やレストラン、アミューズメント施設、ショッピングモール、商店街などがあり、車さえあれば十分に楽しめる都市だと言えるだろう。

【学業編】

1. 大学情報

大学	サウスカロライナ大学	所在地	471 University Parkway, Aiken, SC 29801
最寄空港	オーガスタ・リージョナル空港	空港からの距離	37 km
空港⇄大学	(車) *移動手段		
学生数	約 3000 人	留学生数	約 300 人
学部	Communication & Emerging Media English Languages, Literatures & Cultures History, Political Science & Philosophy Sociology Visual & Performing Arts Business Administration Education Nursing Biological Environmental & Earth Sciences Chemistry & Physics Exercise & Sports Science Computer Science, Engineering & Mathematics Psychology *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Undecided(横浜市立大学にて所属しているゼミに対応する学科がなかったため) *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		International Business, Introduction to Geography, International Management.		International Business, Introduction to Geography, International Management.	Digital Foundations.
午後		World Regional Geography.		World Regional Geography.	

② (1)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Principles of Microeconomics		Principles of Microeconomics	Principles of Marketing (後期後半、オンデマンド)
午後	Consumer Behavior, Statistics for Social Science.	Principles of Comparative Politics	Consumer Behavior, Statistics for Social Science.	Principles of Comparative Politics	

3. 履修内容

科目	International Business		
履修期間	前期	単位数	3
授業内容／形態	国内だけでなく、世界中の他の国々に向けてビジネスを行っていくにはどのような方法があるのかについて検討する。教授がパワーポイントを用いて講義する。		
成績	B		
YCU 振替予定	科目	International Business	
	単位数	2	
	担当教員	山本 雅樹	

科目	International Management		
履修期間	前期	単位数	3
授業内容／形態	様々な国からの従業員を雇う多国籍企業において言語の違い、文化の違いをどのように乗り越え、会社を運営していくべきかを学ぶ。教授がパワーポイントを用いて講義する。		
成績	B ⁺		
YCU 振替予定	科目	Global Business Administration	
	単位数	2	
	担当教員	小林 規一	

科目	Introduction to Geography		
履修期間	前期	単位数	3
授業内容／形態	世界の国々を地域ごとにフォーカスし、気候、文化、慣習、言語、宗教等の観点から分析する。教授がパワーポイントを用いて講義する。		
成績	B		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	World Regional Geography		
履修期間	前期	単位数	3
授業内容／形態	アジア、アフリカ等の欧州を除く地域に限定し、それらの地域の特徴をより詳しく分析し、文化の起源や文化的傾向等を研究する。教授がパワーポイントを用いて講義する。		
成績	B		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Digital Foundations		
履修期間	前期	単位数	3
授業内容／形態	コンピューターを用いてデザインを作りあげる方法を学ぶ。教授がデモンストレーションを行い、学んだ技術をもとに各自オリジナルの作品を作りあげる。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Consumer Behavior		
履修期間	後期	単位数	3
授業内容／形態	商品を買うという消費者行動について深く研究し、売り手の行動がどのように消費者の心理に影響するのかを学ぶ。教授がパワーポイントを用いて講義する。		
成績	C		
YCU 振替予定	科目	消費者行動論	
	単位数	2	
	担当教員	柴田典子	

科目	Principles of Marketing		
履修期間	後期後半	単位数	3
授業内容／形態	マーケティングを始める上で重要な考え方である、SWOT 分析やCramer の 5 forces など参考に、初歩的だが実践的にマーケティングについて学ぶ。オンデマンドで配布されるパワーポイント、音声録音を参考に、与えられた課題で学びを深める。		
成績	C		
YCU 振替予定	科目	マーケティング論	
	単位数	2	
	担当教員	柴田典子	

科目	Statistics for Social Science		
履修期間	後期	単位数	3
授業内容／形態	統計学について学び、統計学の概念をデータ分析等に活用する方法について理解する。教授がパワーポイントを用いて講義する。		
成績	B +		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

留学生生活を通じて、私は自分自身を見つめ直し、改善することで異なる文化に適応することができました。自分にとって最も大きな障壁の一つは言語でした。日本では大学専攻の基準となるスコアは獲得していたのですが、やはり実際にその言語のみを用いて会話をすると、最初はかなりハードルが高く、苦戦しました。しかし、最も苦手であったリスニング力を鍛えるために授業の録音を繰り返し聞き、友だちと会話する機会をなるべく多くすることを意識したことで、時間はかかったものの全く分からない状態からは抜け出すことができました。この言語習得の過程で気づいたことは、発音の大切さとはっきり話すことの必要性です。ネイティブの人はとてつもないスピードで話すので、最初はそれについていくためにはなるべく早く話すことを意識していました。しかし、実際にネイティブと話して、間違った発音のまま話してしまっているフレーズや単語はどれだけ話すスピードを変えても聞き取ってもらえないことに気づきました。これは、恐らく観光客の多い有名都市の人ではなく、訛りに慣れていない田舎の人と話す機会が多かったからこそ得られた視点だと思うし、これによって今一度雰囲気話していた自分の英語の発音を見直す機会になりました。また、はっきりと一語一語を発音することが日本語よりも英語の方が重要だという印象を受けました。自分は日本語訛りに関わらず、よく自信がなくて尻下がりになってしまいがちなのですが、これによってより聞き取ってもらえなくなってしまっていることに気づきました。この学びを生かし、文法は気にせず言い切ることを意識したことで聞き取ってもらえることが増えた気がします。学業も自分の中では一つの大きな壁でした。やはり同じ学問でも日本語で学ぶのと英語で学ぶのでは難易度の差がかなり大きく、特に用語の多いビジネスなどの分野ではまず単語が何を指しているのかを覚えることに苦戦しました。また、アメリカでは日本の大学と違って小テストなどが多く、常にテストに向けて勉強をしなければなりません。しかし、ここで学んだことによって、重要などところを見分ける力、継続的に努力する力を養うことができました。テスト対策をするにも教科書を全て読んでいると途方もない時間がかかってしまうので授業で発表されるオブジェクティブから何が重要かを考える癖がついたし、毎週のように行われる小テスト対策のおかげで勉強に対する抵抗感が薄れました。これは日本に帰ってからも継続していきたいと思います。

最後に人間関係について触れたいと思います。自分の留学生活で最も苦戦したのは人間関係だと言っても過言ではありません。他言語を用いて人とつながるということは想像をはるかに超える難しさでした。特に自分の大学では日本人はほとんどおらず、留学生活で日本語を使うことは一切ありませんでした。そのため、常に英語を用いて会話していましたが、一番は自分の思っていることを正確に相手に伝えるのが非常に難しいことが、自分にとっては悩みの種でした。どれだけ自分が仲良くしたいと思っても、それが相手に伝わらないことが多く、人が離れていく中でどうすれば良いか分からずに自暴自棄になってしまう時期もありました。そんな時に助けてくれたのが日本にいる家族、友だちでした。彼らはいつも自分を応援し、心の支えになってくれたため、途中で投げ出さずに最後までやり切り、最終的には決して多くはないものの何人かの友達を作ることができました。私がここで言いたいことは、時には辛いことや苦しいことから逃げて精神を整えるこ

とが近道になることもあるということです。実際に私は一人で抱え込んでいたものを友達や家族に打ち明けたことで気持ちが楽になったし、前向きに取り組むきっかけになりました。これは留学に行ったからこそ得られた気づきではないかもしれないけれど、自分の視野を広げる大きな気づきであったと感じています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

この留学を終えて、様々な障害に向き合ったことで得られた問題解決能力、約 9 カ月間の間取り組んで得た英語力、アメリカに実際に住んだことで得られた新たな視点、人間関係から得られた向き合い方など、多くのことを得ました。今後は、これらを用いてさらに自分の成長を促進し、より広い視野で物事を捉えることができるよう努めたいと思います。まず、問題解決能力を活かして、職場や日常生活で直面する課題に対処していくつもりです。異なる環境に身を置いたことで得られた忍耐力を生かして、難しい課題に対処できるような人間になりたいです。英語力については、何よりも維持、向上をすることが大切だと考えているので、引き続き学習を継続し、資格の取得を目指したいと考えています。アメリカでの生活を通じて得た新たな視点は、異なる文化、価値観を持つ人々を理解するうえで非常に重要だと思うし、柔軟に物事を考え、個々を尊重できるようになりたいです。人間関係から得られた向き合い方は、チームワークやリーダーシップにおいて大いに役立つと感じています。異なる意見や価値観を尊重しながら、建設的な対話を通じて協力関係を築く力をさらに磨きたいです。この能力を活かして、チームやコミュニティでの活動に積極的に参加し、リーダーシップを発揮することを目指します。このように、留学で得た多くの経験とスキルを今後の自己成長に生かし、キャリアを築いていきたいと思っています。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

私が後輩へのアドバイスとして伝えたいことは、分からないことを恥じずに聞くこと、自分の意見をはっきりと伝えること、困っているときは頼ること、無理をしないこと、です。まず、分からないことを聞くことは何も恥ずかしいことじゃないということを頭において欲しいです。自分も人の目を気にしてしまい、分からないことを自分で解決しようとしがちなのですが、例えどれだけ初歩的なことでも馬鹿にしてくる人はアメリカにはいません。だから積極的に分からないことを質問してほしいです。また、自分の意見をはっきりと伝えなければ、自分だけが損してしまいます。アメリカ人は、相手の態度から察することが苦手な人が日本と比べて多いと感じます。態度で不満を表すのではなく、しっかりと言葉で、それが無理なら文面でもいいので伝えましょう。また、困っているときは誰かに頼ってください。一つ目とかぶるところがありますが頼ることは恥ずかしいことではありません。留学先に頼る人がいなければ日本の家族や友人でも良いので、一人で抱え込まないようにしましょう。最後に、無理をしないようにして下さい。肉体的な問題よりも精神的な問題が多いと思います。留学には多額のお金がかかるので途中で放棄するのはどうしても気が引けるし、親に申し訳なく感じてしまうと思いますが、自分の身が一番大切です。辛く、耐えられないと感じたら途中で帰国するのも一つの手だと私は思います。最後に、留学を希望する人に、自分が感じた留学の魅力について伝えたいと思います。特に長期留学は日本ではできない経験をできるということが何よりの魅力だと思います。短期の旅行ではできないこと、例えば留学先の国の視点で学問を学んだり、地元のアミューズメントパークに遊びに行ったり、キャンパスイベントに参加したりなど、海外の大学生だからできることが多くあります。それらから得た経験は、今後の人生にとっても大きな財産となると思うし、留学をしない人にはできない経験です。私は留学したからこそできた経験を大切にしたいし、その経験を得るために積極的に行動してほしいと思います。